

【別途添付資料】

参加アーティストプロフィール



レアンドロ
エルリッヒ
Leandro Erlich

ブエノスアイレスをベースに国際的に活動する現代アーティスト。日本でも数多くの作品が紹介されているが、2017年に森美術館で開催された個展は様々な世代の観客を集める人気のある展覧会となった。2019年の瀬戸内国際芸術祭や恒久設置作品となっている大型作品

「Palimpsest: 空の池」を完成させた2018年の大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレへの参加も記憶に新しい。2001年にアルゼンチン代表としてベネチア・ビエンナーレに出品された「スイミング・プール」は2004年の開館以来、金沢21世紀美術館の恒久設置作品となっている。

<http://www.leandroerlich.art/>



Le Monte-meubles
- l'Ultime Déménagement (2012)
Place du Bouffay, Nantes, Le Voyage à Nantes,
France.
© Photo by Martin Argyroglo



The Swimming Pool (2004)
The 21st Century Museum of Art of Kanazawa,
Kanazawa, Japan
© photo by Keizo Kioku, courtesy 21st Century
Museum of Contemporary Art, Kanazawa



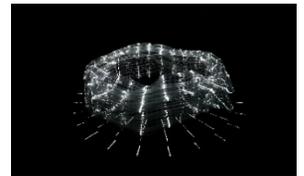
後藤 映則
Akinori Goto

アーティスト。1984年岐阜県生まれ。原初的なメディアや素材から、現代的なテクノロジーまで、さまざまな手法を用いて、動きや時間、そしてそこから立ち現れる生命感を主題に据えた作品を制作している。近年の主な展覧会に、2022年「光・舞弄・影 - 2022 臺灣國際光影藝術節」台湾国立美術館（台北）、2021年「生態系へのジャックイン展」見浜園（千葉）、2020年「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.09 時どきどき想像」高松市美術館（香川）、2019年「オープン・スペース 2019 別の見方で」NTT Inter Communication Center [ICC]（東京）、2019年「Ars Electronica Festival 2019」POST CITY（リンツ）、2018年「Media Ambition Tokyo 2018」六本木ヒルズ（東京）、2017年「2017 SXSW Art Program」JW Marriott（オースティン）など。現在、武蔵野美術大学准教授。

<https://www.akinorigoto.com/>



ENERGY #01



toki- BALLET #01

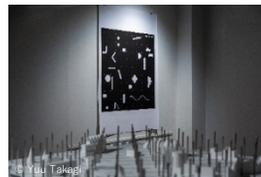


ULTRA STUDIO

向山裕二、上野有里紗、笹田侑志からなる建築コレクティブ。2013年に結成。日本とヨーロッパで経験を積み、2018年より東京をベースに設計活動を開始。都市文化を批評的にとらえなおしつつ、建築的介入を創り出す。建築や家具の中に、特定の機能を持たない象徴的な形を忍び込ませ、ひとつひとつに気づきを与えるデザインを試みている。

Frame Awards 2021, Set Design of the Year受賞、iF Design Award 2022, Window display部門受賞。

<https://ultrastudio.jp/>



LANDSCAPE GOES DOMESTIC



UltraStudio_02



TOUCH ふれる#1



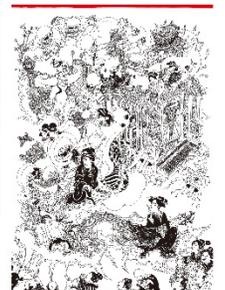
高橋 信雅
Nobumasa
Takahashi

桑沢デザイン研究所卒業。東京と鬼ヶ島を拠点に国内外で活動しているアーティスト。線描による表現は、日本では「洋」を海外では「和」を感じさせる独自の世界観を生み出している。美術館や商業施設などへの壁画制作、グッズ、商業デザインなど、様々なジャンルで作品を発表。ニッチな制作と立証実験を続けている。代表作でもある「ジャパニーズグラフィティシリーズ」は漫画や日本の伝統的な手法も取り込み、マイクロソフト、コンパス、ワコールなど企業とのコラボレーションも行なっている。

<http://www.nobumasatakahashi.com>



ARTBAY TOKYO PRESENTS
"THROW THE RIBBONS"
AT ARTBAY HOUSE IN TOKYO



JAPANESE GRAFFITI series
"Tenbeni, Osaka, Godairiki"